

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp



こいけ動物病院長
(高岡市出来田)
小池 仁彦

「うちの子、もう10歳を過ぎたら、麻酔はかけられませんか?」
こんな質問を時々受けます。この質問に対し、私は「ノー」と答えます。「うちの子は若いし元気だから、麻酔をかける時の心配は全くないですよ?」との質問に對しても、また私は「ノー」と答えます。

例えば高齢の子であっても、麻酔をかけて手術をすることで寿命を延ばせる、あるいは生活の質が大きく改善する可能性が高ければ、麻酔をかける価値は十分にあり

高齢ペットの麻酔



リスクとメリット知る

ります。もちろん、他の病気や手術の金額など、実際の場面ではさまざまな条件が関わってきますので、一概に何が正解と言えるものではありませんが。

一方で、絶対に安全な麻酔というものも残念ながらありません。どんなに若くて元気で食欲もあって、各種検査で何の問題がなかったとしても、リスクのない麻酔は存在しません。

たとしても、リスクのない麻酔は存在しません。

獣医療には麻酔をかける前にリスクを客観的に評価する基準として、米国麻酔科学会(ASA)が提示している「ASA分類」という評価法があります。

患者の状態を5クラスに分けるもので、クラスが上がるほど麻酔

による死亡率が上がるといえるのです。例えば、クラス1は健康で基礎疾患がない、クラス5は手術の有無に関わらず24時間以上の生存が期待できない、とあります。

歯の処置を終え、全身麻酔から覚めた12歳のミニチュアダックスフント

これによると「単に高齢」であることがクラス2に入るのに対し、若くても発熱や脱水があるとクラス3に入ります。つまり高齢であっても健康であれば、麻酔のリスクは「大幅には」上がりません。飼い主さんの中には高齢であることを理由に、麻酔をかけるという行為に対し、過度にハードルを上げている方が少なくないように思われます。

現在、新型コロナウイルスに関連して「正しく恐れる」という言葉が耳にしますが、麻酔においても似たようなことが言えるのかも知れません。大事なことは麻酔をかける前に、①その麻酔が本当に必要なのか②必要な場合にどの程度のリスクがあり、どんなメリットが得られるのかということを中心として主治医とよく話し合うことだと私は考えます。